

令和3年度国際学会発表支援成果報告書（オンライン）

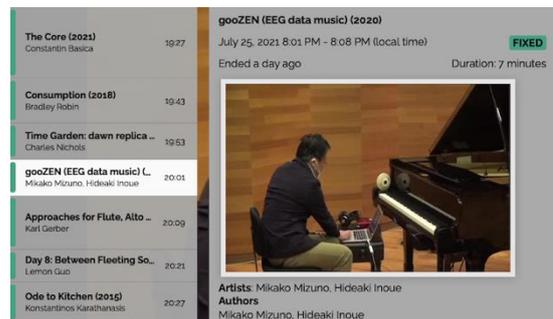
No.1

【所属】	芸術工学研究科	博士後期課程	1年	(情報環境デザイン学)
【氏名】	井上 英章			
【主催機関（国名）】	Faculty of Arts, Pontificia Universidad Católica de Chile（国名）チリ			
【学会の名称】	International Computer Music Conference 2021 (国際コンピュータ音楽会議2021)			

研究発表報告

□ 成果報告

2021年7月24日～31日に開催された、ICMC2021に参加いたしました。今回は、新型コロナ感染対策のため、チリ・カトリック大学を会場にして、オンラインで開催されました。私は、笙で構成した楽曲をベースに、脳波(EEG)で自動演奏ピアノを演奏するという作品を事前に提出し、ICMC開催中に、「リスニングルーム」というブースサイトにて発表いたしました。



□ 感想

今回は、オンライン開催ということで、現地に赴くことはできませんでしたが、逆に、自宅に居ながらにして世界各国のコンピュータ・ミュージックを拝聴することができ、大変、刺激を受けることができました。発表作品には様々な作風・技法が多々あり、自身の作品製作にあたっての参考にしたいと思います。

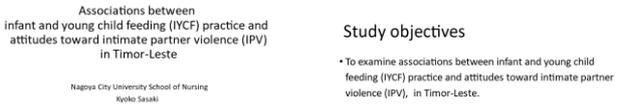
令和3年度国際学会発表支援成果報告書（オンライン）

No.2

【所属】	看護学研究科 博士後期課程	3年（国際保健看護）
【氏名】	吉野 亜沙子	
【主催機関（国名）】	Universitas Airlangga	（国名）インドネシア
【学会の名称】	52nd Asian-Pacific Academic Consortium for Public Health Conference 2021 （アジア・太平洋地区公衆衛生学校合体）	
研究発表報告		
<input type="checkbox"/> 成果報告		
<p>愛知県内の日本語学校に在籍するベトナム人留学生におけるソーシャルサポートと保健医療アクセスの関連について発表しました。過去12ヶ月間に受診したくてもできなかった経験のある留学生は232人中46人（19.8%）であった。情緒/情動的ソーシャルサポートスコアが低群である学生と比べて、中高群、高群の学生の受診を諦めた経験ありの調整オッズ比はそれぞれ0.20, 0.26であった。ベトナム人留学生において、ソーシャルサポートは保健医療アクセスの重要な関連要因であることが分かった。</p>		
<input type="checkbox"/> 感想		
<p>本学会で、初めて国際学会においてオンラインで口頭発表をしました。今まで、学会での発表は、開催場所に向いての発表だったため、自宅から参加でき、学会前後の時間も有効活用することができ、オンライン学会の利点を発見致しました。英語での口頭発表ということで、非常に緊張しましたが、開催国のお国柄なのか、主催者、他の発表者そして参加者全員が和やかでフレンドリーであったため、ストレスフリーで討論することができました。中には、発表中にノートパソコンを持ちながら部屋を移動している発表者がおり、アジア諸国の人柄を拝見することもでき、親近感を覚えました。このような和気あいあいとした学会はオンラインならではのかもしれない、普段なかなかできない経験をすることができました。そして、討論した内容を積極的に論文投稿に役立てることができそうです。</p>		

No.3

令和3年度国際学会発表支援成果報告書（オンライン）

【所属】	看護学 研究科 博士前期 課程 2 年（助産学分野）
【氏名】	佐々木 景織子
【主催機関（国名）】	THKM（国名） Sri Lanka
【学会の名称】	the 5th Global Public Health Conference (GlobeHeal2022)（第5回グローバル公衆衛生会議）
研究発表報告	
□ 成果報告	
<p>東ティモールにおける適切な離乳食の実施と女性の暴力に対する態度の関係について the 5th Global Public Health Conference (GlobeHeal2022)の母子保健領域で発表しました。</p> <p>右が、発表資料の一部になります。</p>	
	
□ 感想	
<p>本学会に参加し、様々な切り口から見た母子保健領域の研究について学ぶことができました。それと同時に、母子保健課題は、それぞれの国における母子保健の政策を踏まえたうえで解決策を探る必要性があることに加え、各国における現状から自国の改善策の手がかりを得られる可能性があることも感じました。そのため、今回の調査で明らかになった点を改善するための検討において、日本などの先進国の現状との比較のみならず、近隣諸国などの現状も観察していくことが大切だと感じました</p>	

令和3年度国際学会発表支援成果報告書（オンライン）

【所属】	看護学研究科 修士 課程 2年（国際保健看護学）
【氏名】	西川 定之
【主催機関（国名）】	The International Institute of Knowledge Management（国名）スリランカ
【学会の名称】	5 th GLOBAL PUBLIC HEALTH CONFERENCE-GLOEHEAL 2022（第5回 グローバルパブリックヘルスカンファレンス）
研究発表報告	
<input type="checkbox"/> 成果報告	
・修士論文をもとに、原稿を作成し、口頭発表を行った。他の演者からは、産科合併症についての知識の定義について「なぜ3つの質問を選択したのか？」や「産科合併症は他にもあり、更なる研究は必要でないか？」などの質問があった。	
<input type="checkbox"/> 感想	
・英語での発表が私自身初めてであり、自分の英語力の無さを感じた。また、他の演目を聞き、MCH(mother and child health)においての他国の現況や研究の視点がある事が新たな発見であり、とても興味深く聞いた。	
・研究を発表するにあたり、効果的な原稿の作成や英語でのプレゼンテーション能力に磨きをかけたいと思う。	

令和3年度国際学会発表支援成果報告書（オンライン）

【所属】	医学研究科	博士 課程	4 年（実験病態病理学分野）
【氏名】	Dina Mohammed Mourad Saleh		
【主催機関（国名）】	American society of Toxicology	（国名）アメリカ	
【学会の名称】	61th Annual Meeting Society of Toxicology and ToxExpo		
研究発表報告			
<input type="checkbox"/> 成果報告			
<p>The present study investigated for the first time the long term in vivo toxic and carcinogenic effects of 3 different doses of Double-Walled Carbon Nanotubes (DWCNTs) in the lung and pleura after pulmonary administration by TIPS. Based on the tumors that developed in the DWCNT treated rats and the histopathological and biochemical evaluation it was revealed for the first time that DWCNT induced significant inflammation of lung tissue and increased the incidence of bronchoalveolar tumors. Consequently, DWCNTs can be considered a possible human carcinogen. This will have a significant impact on global risk assessment and administrative control of Double Walled Carbon Nanotubes , and the presentation at SOT 2022 is expected to attract significant attention.</p>			